

いのちの言の葉

「いのちってなあに パート2」 平成19年度 射水市立中太閤山小学校 5年

「イワナのつかみから感じたこと」

利賀での宿泊学習の中で行った「イワナのつかみ」。イワナの命について考えてみました。

イワナのおなかを切るとき、「私たちは命をいただいているんだ」という思いをもちました。命は、みんな一つしかない大切なもの。私は、いつも食べ物を残してしまいました。これからは命のことを考えて食べたいです。



ぼくは、イワナをさばいて内臓を取り出してそれを見たとき、ちょっと気持ち悪いと思ったけど、体の中にはこういう物が入っているんだ、体の中に入っている物全部が命なんだと感じました。

イワナをとるときに、イワナはすばやく泳いだりジタバタしたりしたから、イワナは死にたくなかったのではないかなと思いました。生き物は、みんな生きるために必死なんだと思いました。

人間と姿形は違うけど、体の仕組みも違うけど、住んでいるところも違うけど、みんな同じ大事な命をもっているんだなと思いました。やっぱりイワナも死にたくないだろうな。



イワナは、私たちと同じ命をもっています。「私たちはその命を一つ殺して食べているんだ」と思うと少し残酷な気持ちになりました。でも、私たちは命を食べないと生きていけません。「たくさんの命が失われて私たちがいるんだ」と思い、命を食べるときは、感謝をしなくてはいけないなと思いました。